

(参考資料2)

■BHQ チャレンジのこれまでの結果について

□第1回 BHQ チャレンジについて(2015年10月8日、2016年3月1日報道発表)

・書面審査の結果

応募アイデアより、有識者による審査委員会の審査を経て、入選アイデアとして採択したものは以下の通り。

機能的食品・植物由来成分関連

- ・パプリカキサントフィルの摂取は、赤血球の酸素運搬機能を高め、高齢者の脳機能の維持・向上に役立つ（江崎グリコ株式会社・一般財団法人生産開発科学研究所）
- ・ビール苦味成分イソフムロンによる生活習慣病予防を通じた認知機能改善効果（キリン株式会社）
- ・バランス活性乳酸菌SBL88による脳健康効果の検証（サッポロビール株式会社）
- ・アロマセラピーによる認知症予防メカニズムの解明（鳥取大学 医学部保健学科 生体制御学講座）
- ・ユズ精油の嗅覚刺激が脳の認知機能に及ぼす影響（公益社団法人 日本アロマ環境協会）

運動・ワークショップ関連

- ・オフィスでの定期的な軽運動が脳へ及ぼす効果検証（ココヨ株式会社）
- ・卓球による脳への刺激が認知機能を格段に向上する（株式会社タマス）
- ・美しい脳プロジェクト「脳のいきいき健康教室」（株式会社ドクタープラネット）
- ・ストレス軽減を目指した「臨床美術」プログラムの脳機能の活性化に関わる検証（凸版印刷株式会社）

ウェアラブル機器関連

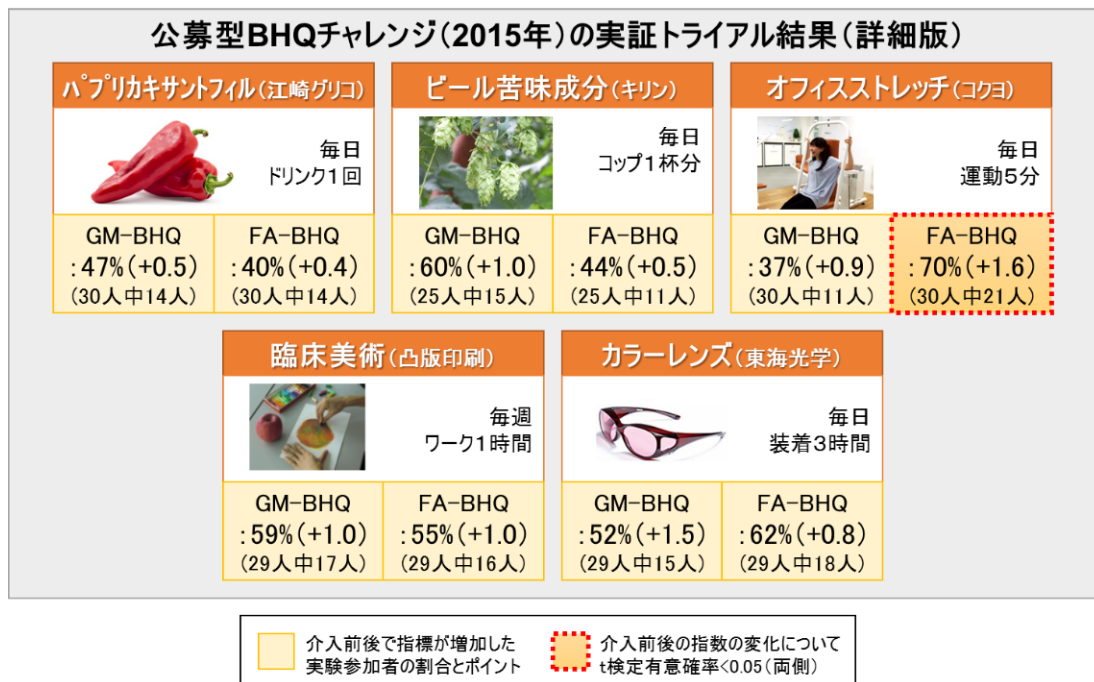
- ・ウェアラブルデバイスにより身体の歪みを正すことで集中力を向上させる！（株式会社Sassor）
- ・身体エクストラパーツのイメージトレーニングによる脳活動の変化（セイコーエプソン株式会社）
- ・女性の悩みを軽減するピンクレンズのメガネで脳も健康に！！（東海光学株式会社）



入選のうち5件(□で示したものを)を実証トライアル参加アイデアとして採択

・実証トライアル結果の詳細

入選アイデアより5件を実証トライアル対象アイデアとして選定し、実施しました。オフィスストレッチにおいて、FA-BHQの値が1ヶ月間の取り組みの前後で有意に増加することが確認されています。(図中に示されている%は、参加者の中でBHQの値の増加した人の比率で、その横に示している数値はBHQが増加した人におけるその増加量(指標換算)の平均になります。)



□第2回 BHQ チャレンジについて(2016年12月20日、2017年2月23日報道発表)

・書面審査の結果

応募アイデアより、有識者による審査委員会の審査を経て、入選アイデアとして採択したものは以下の通り。




- ・抹茶摂取による認知機能改善効果 (株式会社伊藤園)
- ・手書き習慣が脳に与える影響を知る (ココヨ株式会社)
- ・コラーゲンペプチドの摂取による脳機能改善効果の検証 (新田ゼラチン株式会社)
- ・ラベンダーハンドマッサージのストレス軽減により脳の健康度アップ (公益社団法人日本アロマ環境協会)
- ・脳科学的アプローチによるユーグレナ摂取の効果検証及び潜在的な機能性の予測 (株式会社ユーグレナ)



・実証トライアルの結果

入選アイデアより5件全てを対象として、実証トライアルを実施しました。コラーゲンペプチドとラベンダーハンドマッサージにおいて、FA-BHQの値が1ヶ月間の取り組みの前後で有意に増加することが確認されました。

公募型BHQチャレンジ(2016年)の実証トライアル結果(詳細版)

抹茶 (伊藤園)  いつでも飲みやすいボトル		手書き習慣 (ココヨ)  新聞を複写		コラーゲンペプチド (新田ゼラチン)  毎日摂取	
GM-BHQ : 37% (+1.7) (27人中10人)	FA-BHQ : 44% (+2.0) (27人中12人)	GM-BHQ : 50% (+1.5) (30人中15人)	FA-BHQ : 30% (+0.8) (30人中9人)	GM-BHQ : 35% (+1.1) (29人中10人)	FA-BHQ : 69% (+1.7) (29人中20人)
ラベンダーハンドマッサージ (日本アロマ環境協会)  簡単なハンドマッサージを夫婦間で実施		ユーグレナ (ユーグレナ)  毎日摂取			
GM-BHQ : 43% (+1.2) (30人中13人)	FA-BHQ : 73% (+0.8) (30人中22人)	GM-BHQ : 50% (+0.8) (30人中15人)	FA-BHQ : 27% (+0.8) (30人中8人)		

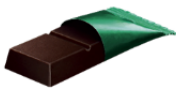

□ 介入前後で指標が増加した実験参加者の割合とポイント
 □ 介入前後の指数の変化について検定有意確率<0.05(両側)

□2016 年度のその他の BHQ チャレンジの結果について

2016 年度に行った、その他の BHQ チャレンジの実証トライアルの結果は以下の通り。

カカオ分 70%以上チョコレートにおいて、GM-BHQ の値が1ヶ月間の取り組みの前後で有意に増加することが確認されています。（カカオ分 70%以上チョコレートについては、2017 年 1 月 18 日に株式会社明治と共同報道発表済）

共同研究型BHQチャレンジ(2016年)の実証トライアル結果(詳細版)

カカオ分70%以上チョコレート (明治)		ゼラニウム精油 (日本アロマ環境協会)	
	毎日 チョコ5枚		毎日2回 芳香10分
GM-BHQ : 60% (+2.3) (30人中18人)	FA-BHQ : 47% (+1.3) (30人中14人)	GM-BHQ : 54% (+0.8) (28人中15人)	FA-BHQ : 36% (+1.4) (28人中10人)

 介入前後で指標が増加した
実験参加者の割合とポイント

 介入前後の指数の変化について
t検定有意確率<0.05(両側)